

**令和5年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業(補正予算事業)」 計画調書**

～ASEAN諸国からの留学生受入、定着促進のためのシステム構築等支援～2次募集

大学の設置者（法人の長）の**氏名**及び**所属・職名**を記入。

	※機関番号が入力されると、自動的に大学等名が表示されます。			
4 代表申請大学	ふりがな	氏名	氏名	氏名
3 事業者 (大学の設置者)	ふりがな	(氏名)		
4 申請者 (大学の学長)	ふりがな	(氏名)		
5 事業責任者	ふりがな	(氏名)		

①科学研究費補助金の申請に使用する5ケタの機関番号を記入。
②国内大学が複数連携する場合は、代表申請大学を一番左に記入。次に機関番号が小さい順に連携機関を記入。
※記入欄不足は事務局までご連絡ください。

6 ASEAN諸国との交流状況			
ASEAN諸国との大学間交流協定数	ASEAN諸国との大学間交流協定に基づく学生受入数		
	2019年度 (コロナ禍以前の状況)	2022年度	2023年度

把握できる最新のASEAN諸国との大学間交流協定数を記載してください。

大学に所属する常勤の役員又は教員で、中心的な役割を果たし、責任を持つ「**事業責任者**」を選任し、記入。

7.1 科目パッケージ①			
申請タイプ	学問分野	科目名	単位数

申請タイプ、学問分野および科目区分（教養科目・専門科目）をリストから必ず選択。
※学問分野は、申請タイプを選択するとプルダウンが表示されます。

7.2 科目パッケージ②			
申請タイプ	共同利用教育パッケージ名		
学問分野		科目名	単位数
区分	科目名	取組学部・研究科等名	単位数
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

8. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

- ① 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているホームページのURLを記入。公表していない場合は、刊行物の名称等を適宜記入。
- ② 国内連携大学等がある場合は、「1. 大学名」欄に記載した参加する全ての大学等分も記入。
 ※記入順は、代表申請大学に続き「1. 大学名」で記入したとおりとすること。
- (例) ホームページ内に教育研究活動等の状況について取りまとめたページがある場合
- ・ ●●大学 <https://www.....>
 - ・ ■■大学 <https://www.....>
- (例) 第1項の項目や取組学部によって掲載ページが異なる場合
- ・ ●●大学
 - 【大学の教育研究上の目的に関すること】
 - (○○学部) <https://www.....>
 - (△△学部) <https://www.....>
 - ・ ■■大学
 - 【□□□に関すること】
 - (○○学部) <https://www.....>
 - (△△学部) <https://www.....>

9. 本事業事務総括者部署の連絡先

部課名		
責任者	ふりがな (氏名)	(所属・職名)
担当者	ふりがな (氏名)	原則、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とする。 e-mail (主) は、係や課などで共有できるものとし、必ず (副) のアドレスも記入 ((主) と異なること) 。
	電話番号	
	e-mail(主)	

採択結果の通知などに使用。
必ず連絡対応可能な担当者を記入。

(大学名: ※機関番号が入力されると、自動的に大学等名が表示されます。)

以降、様式1～3においては、「○」で始まる評価の観点に記載された行を削除して提出してもよい。

様式1

科目パッケージの概要

○申請する科目パッケージごとに作成すること(最大5件申請可能)

○本様式への記載内容が海外の履修者に科目パッケージの概要として提供されることを想定して、分かりやすく簡潔に記載すること。

「学問分野」には、公募要領の各タイプにて示す分野から選択、「JV-Campus上の分野」については、JV-Campus（以下、JVCとする。）上の分野の整理において該当（希望）するものを選択。JVC上でのパッケージや科目の公開は、後者の整理によるものとなる。

	共同利用教育パッケージの名称	
申請タイプ		
学問分野		JV-Campus上の分野

教育パッケージの概要・目的・特徴・国際通用性

○ASEAN諸国から我が国への留学につながる、または日本の大学で学ぶ外国人留学生の留学の効果や価値を高めるなど、大学間交流や学生交流促進の牽引役となるような魅力的な教育を提供できるパッケージとなっていること。

「教育パッケージの概要・目的・特徴・国際通用性」について、○印の観点に留意し明確に記載。

どのような人に受講してほしいか

○具体的な受講対象者が想定され、対象者の関心を喚起する魅力的な内容が提供されるものであり、継続的に多くの履修者が見込まれる通用性のあるパッケージとなっていること。

※履修の前提要件や求められる技能などがある場合には、それについても記載すること。

「どのような人に受講してほしいか」について、○印の観点に留意し明確に記載。

受講者にとっての魅力

「受講者にとっての魅力」について、JVC上で公表される履修希望者に対する説明文として、分かりやすく記載すること。

到達目標

○養成しようとする人材像が明確に設定されているとともに、履修者が獲得できる能力が明確に設定された到達目標が設定されており、パッケージを構成する各科目は到達目標の達成のために適切なものが配置されていること。

「到達目標」について、○印の観点に留意し明確に記載。
様式2において、「科目の目標」、(科目における)「履修者の到達目標」及び各コンテンツにおける「到達目標」を記載する欄があるため、ここではパッケージの到達目標を記載すること。

パッケージの活用状況について、4つの指標を設定すること。

指標の達成状況は、フォローアップ活動（令和7年度後半もしくは令和8年度を予定）において確認することを想定している。

パッケージの活用における指標の設定

○現状分析に基づく定量的な数値目標を設定してください。

		科目開講年度	2年目
1	在学中ではない自大学提供の共同利用科目の履修者数(年間)	人	人
2	在学中の自大学提供の共同利用科目の履修者数(年間)	人	人
3	共同利用科目パッケージを構成する科目の履修(他大学提供科目を含む)から自大学への留学・入学に繋がった人数(年間)	人	人
4	自大学に在籍する自大学提供の共同利用科目の履修者のうち海外留学に参加した人数(年間)	人	人

学外の履修者を増加させる取組

指標の達成のために行う「学外の履修者を増加させる取組」を記載してください。

学内の履修者を増加させる取組

指標の達成のために行う「学内の履修者を増加させる取組」を記載してください。

科目の概要

○共通科目として全国の大学で活用される(単位互換等が行われる)ことを想定して、汎用性のある科目で構成されていること。

	区分	科目名	科目を提供する部局 (取組学部・研究科等)	単位数
1		パッケージを構成する科目について記載してください		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

科目数が8科目を超える場合は、様式をコピーして作成すること。
ただし様式1を参照しているセル（0が入っている箇所）は適宜修正すること。

様式2

科目1の詳細		
○単位の付与に相当する十分な学習時間及び透明性、客観性の高い厳格な成績評価の仕組みを備えた科目であること。 ○本様式への記載内容が海外の履修者にシラバスとして提供されることを想定して、分かりやすく簡潔に記載すること。		
大学名		
0		
申請タイプ	科目パッケージの名称	学問分野
0	0	0
区分	科目名	
一つの科目やコンテンツを必ずしも一人の教員のみで担当する必要はなく、ここでは科目を総括する教員を記載すること。		
0	0	0
科目のレベル	授業担当(総括)教員	
履修人数(上限)	履修期間の設定の有無	
単位に相当する学習時間の設定		
○1単位当たり45分のコンテンツを15回程度とすることを標準とするが、申請大学の考え方により設定されたものを評価する。		
「単位に相当する学習時間の設定」について、○印の観点に留意し明確に記載。 「計画」は、こちらで記載した設定に基づいて記載すること。		
使用言語		
使用言語は英語を基本とするため、プルダウンから2種類のいずれかを選択すること。		
キーワード		
授業内容に関連するキーワードを記載すること。		
科目の目標		
○科目ごとに養成しようとする人材像が明確に設定されているとともに、履修者が獲得できる能力が明確な到達目標が設定されていること。		
「科目の目標」について、○印の観点に留意し明確に記載。 科目としての到達目標を記載する本欄と「履修者の到達目標」における具体的な到達目標について書き分けること。		
履修者の到達目標		
○ルーブリック等を用いた到達目標の具体的な達成水準の明確化がされていること。		
「履修者の到達目標」について、○印の観点に留意し明確に記載。		

科目の内容

- 履修者の関心を喚起する魅力的な科目内容が提供されていること。
- 多くの履修者が見込まれる通用性のある科目となっていること。

「科目の内容」について、○印の観点に留意し明確に記載。
JVC上で公表される履修希望者に対する説明文として、分かりやすく記載すること。

課題・成績評価の方法(評価の割合も示すこと)

- 透明性、客観性の高い厳格な成績評価の仕組みを備えること。
- 科目としての課題等(試験、レポート等)を科し、成績評価の仕組みを備えると共に、1コンテンツごとに課題等(レポート、小テスト等)を設定するとともに、動画1本ごとに内容の確認(小テスト等)を設定すること。

「課題・成績評価の方法」について、○印の観点に留意し明確に記載。
方法に加え成績評価における、各項目の評価の割合も示すこと。

教材・テキスト等

- 全世界での履修を想定した入手性において利用可能な教材やテキストが設定されていること。

「教材・テキスト等」について、○印の観点に留意し明確に記載。
既存の教材等を使用しない場合は、その旨を記載すること。

参考文献

計画

○科目の内容に即した適切なコンテンツで構成されており、各コンテンツにおいて、履修者が獲得できる能力が明確な到達目標が設定されていること。

○1コンテンツは標準15分の動画3本の45分で構成され、1科目(1単位相当)は標準15コンテンツで構成すること

○動画は、英語を使用言語とすること。(ただし、講義を日本語で行い、英語字幕を付けること及び、講義中で使用する教材や資料等を日英両言語対応で作成することは可能)

「計画」について、○印の観点に留意し明確に記載。
30回分以上コンテンツがある場合は、適宜欄をコピーして記入すること。

1回	タイトル	
	概要	
	到達目標	
	キーワード	
	サブタイトル1	サブタイトルの欄には、各動画のタイトルを記載すること。動画3本以上で1コンテンツを構成する場合は、適宜欄を増やして記載すること。
	サブタイトル2	
	サブタイトル3	
2回	タイトル	
	概要	
	到達目標	
	キーワード	
	サブタイトル1	
	サブタイトル2	
	サブタイトル3	
3回	タイトル	
	概要	
	到達目標	
	キーワード	
	サブタイトル1	
	サブタイトル2	
	サブタイトル3	
4回	タイトル	
	概要	
	到達目標	
	キーワード	
	サブタイトル1	
	サブタイトル2	
	サブタイトル3	
5回	タイトル	
	概要	
	到達目標	
	キーワード	
	サブタイトル1	
	サブタイトル2	
	サブタイトル3	

自由記述(1ページ以内)

○到達目標に記載するルーブリックや科目の説明に必要な概念図など、必要があればこちらに記載すること。

様式2の他の欄に書ききれないことや図を使って説明したいことなどがあれば、こちらに1ページ以内で記載すること。

0

0

共同利用科目の提供方法・利用方法(3ページ以内)**①共同利用科目の提供方法****○以下の条件を前提とすること**

- 開発・提供されたコンテンツの権利は開発元に属す一方で、コンテンツは無料でJV-Campusに提供されるとともに、コンテンツの使用権はJV-Campusも所有する。JV-Campusでは、コンテンツ使用権を行使し、共同利用教育パッケージを公開・運営する。(提供されたコンテンツの使用権が各提供元から失われることを意味するものではない。)
- コンテンツ作成に係る著作権処理は大学側で行うこと。(ただし、JV-Campusが権利を保有するJV-Campusアーカイブ上の映像資料は、JV-Campus上に限り、運営委員会の著作権の取り扱いに従い、無償で利用することが可能。)
- 共同利用教育パッケージを構成する科目は、自大学の科目として認定すること。
- 共同利用教育パッケージを構成する科目は、学外の者の履修を可能として、履修者に対して課題の採点等を行い、要件を満たした者には、単位等(少なくとも履修の証明)を付与すること。ただし、単位等(少なくとも履修の証明)の付与は、パッケージ単位ではなく、科目単位で付与すること。
- 履修人数、実施学期や期間の設定、履修者に対する質問対応等含む共同利用教育パッケージを構成する科目の運用は、採択大学で定めて実施すること。

【現行の制度上での運用】

○学外の履修者に対する共同利用科目の提供方法について、履修者の身分、登録等の手順・時期等の必要な手続きに言及しつつ、現在の申請大学の制度等において実施可能なものを示すこと。

【現行の制度上での運用】について、○印の観点に留意し明確に記載。
 科目の開講時点で実施可能な運用について記載すること。

【今後の運用の改善と課題】

○履修者に対する共同利用科目提供の利便性を向上させることを目的として、学外の履修者に対する科目の提供方法について、現行の手続きの煩雑さの克服、オンライン履修者の本人確認の確かな方法等について記載すること。

○上記克服のために必要となる制度の改正等について示すこと。(例:JV-Campusのみで自大学の科目等履修生として登録することが可能か。)

【今後の運用の改善と課題】について、○印の観点に留意し明確に記載。
 本欄に記載する事項の確実な実施の確約を求めるものではない。

【その他・特記事項】

共同利用科目の学内での運用に関し、【現行の制度上での運用】及び【今後の運用の改善と課題】の観点では記載しきれないことがあれば、記載すること。

②他大学提供の共同利用科目の利用方法

○他大学提供の共同利用科目の利用について、令和6年度を目途に、当該コンテンツを利用して取得した単位を自大学において認定することを保証する仕組みとして、現実的に実行可能性のある実施形態が示すこと。(例:複数大学による単位互換コンソーシアムの形成)

※ただし、JV-Campus運営委員会や連携大学間で調整を行う等して、必ずしも当初の計画のとおり実施することを求めるものではない。

【計画】

他大学提供の共同利用科目の利用方法の【計画】及び【概念図】について、○印の観点に留意し明確に記載。
本欄に記載する事項の確実な実施の確約を求めるものではない。

【概念図】

大学名	申請タイプ	共同利用教育パッケージの名称

補助期間における各経費の明細【1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和5年度大学の世界展開力強化事業～ASEAN諸国からの留学生受入、定着促進のためのシステム構築等支援～2次募集 公募要領参照。）

(単位：千円)

<2024年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	0	0	0	
	①設備品費	0	0	0	
	②消耗品費	0	0	0	
	[人件費・謝金]				
	①人件費				
	②謝金				
				0	
	[旅費]	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
	[その他]	0	0	0	
	①外注費	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
	②印刷製本費	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
	③会議費	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
	④通信運搬費	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
	⑥その他（諸経費）	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
2024年度	合計	0	0	0	

大学負担額を計上している場合、各費目内訳を記入。

「経費区分」欄
 ①区分については、「令和5年度大学教育再生戦略推進費
 「大学の世界展開力強化事業（補正予算事業）2次募集」の「（別添3）経費の用途可能範囲」を参照。
 ②費目の内訳は、内容がある程度分かるように記入。
 記載例：教材印刷費 〇〇〇千円
 〇〇部×@〇〇〇円
 : 謝金 〇〇〇千円
 〇〇人×@〇〇〇円